

緊急事態宣言の延長について

沖縄県では、7月以降、新型コロナウイルス感染症が中南部を中心として急速に拡大したことから、8月1日から15日までを対象とした緊急事態宣言を7月31日に発出しました。その後、感染が宮古や八重山、北部等にも拡大し、県内全域が感染蔓延期を迎えたことから、8月13日には警戒レベルを第3段階から第4段階に引き上げるとともに、緊急事態宣言を8月29日まで延長し、県民一丸となった感染拡大防止対策に取り組んできたところです。

また、全国15道県の知事や看護師の皆様をはじめ、厚生労働省、自衛隊等の政府機関の皆様、ジャパンハート様等の民間団体の皆様に医療人材等を派遣していただくなど、多大なご尽力をいただいております。

その結果、県内新規感染者数は8月中旬をピークに減少傾向にあり、警戒レベルは第3段階に引き下げることが出来ました。

しかしながら、医療提供体制については、療養者数、病床占有率、重症者用病床占有率、ともに改善傾向にあるものの、引き続きひっ迫した状況にあり、入院者に占める高齢者の割合が増加し、重症化リスクと入院の長期化が懸念されます。

さらに、医療機関や高齢者福祉施設等で発生している集団感染は、まだ全てが沈静化しておらず、今後新たな集団感染が発生すれば医療機関への負荷が一気に高まる危険性があります。

このような状況から、昨日の専門家会議からの意見や、本日開催した本部会議における検討の結果、旧盆の時期と重なる8月30日から9月5日までの期間は緊急事態宣言を延長することを決定しました。この期間は、警戒を続けながら感染の収まりを見極める最終の警戒監視期間にしたいと考えています。引き続き、県民一丸となって感染予防対策に集中して取り組むことで、現在の改善の流れを確定的にし、医療提供体制のひっ迫状況から脱することによって、社会経済活動の正常化につなげてまいりたいと考えています。

県としましては、現在340室確保している宿泊療養施設を中・北部へ増設するとともに、検査協力医療機関を107件から138件へ拡大する等、医療提供体制の充実を進めています。また、無症状の濃厚接触者へのPCR検査についても再開します。

集団感染が発生した場合は、必要に応じて施設名の公表を行うなど早期に封じ込める対策を強化します。

那覇空港のTACOにおける抗原検査を実施するとともに、接触確認アプリ「COCOA」の利用促進や新たにLINEアプリによる濃厚接触者通知システムの導入を進めるほか、マスクの着用や手洗いなどこれまで同様新しい生活様式の徹底を呼びかけます。

このように県として引き続き医療提供体制の拡充と感染拡大防止対策に全力を上げて取り組んでまいります。

来週月曜日、8月31日から旧盆に入ります。例年であれば、エイサーの太鼓の音、音色も鳴り響く、練習の風景もあったと思います。しかし今年はとても静かな旧盆の前の状況になっています。

親戚で集まることを楽しみにしている方も多いと思いますが、特に高齢者の方は重症化のリスクが高いといわれていますので、本当に心苦しいところではあります。今年の旧盆については、おじー、おばーに行くのは控えて頂き、家の仏壇に線香をあげに行く場合でも、少人数で行かれることをお願いします。

新型コロナウイルスとの共存する「ウィズ・コロナ」の時代において、本当に厳しい状況はありますが、県民の命、健康をしっかりと守るためには、県民のお一人お一人協力が不可欠であります。引き続き、お互い支え合い、助け合って皆様のご理解とご協力でコロナウイルスを乗り越えていきましょう。どうぞよろしくお願い致します。

令和2年8月28日
沖縄県知事 玉城デニー